

SHINAGAWA SUZUKO



品川鈴子句集

六香

△むこ▽



角川書店

手
廂
す
旭
ま
ぶ
し
き
初
飛
行

北イタリ
旅吟

日
本
て
ふ
魚
の
背
骨
は
雪
連
峰

な
き
夫
に
凭
れ
機
席
の
初
夢
よ

ミラノ・ドゥオモ（大聖堂）十二句

スケートの楽聖堂に研して

燭ゆらぐ大聖堂の隙間風

聖堂の雪うす汚れ宇宙塵

ゴ
シ
ツ
ク
の
塔
金
箔
の
風
花
す

楽
流
し
夜
は
氷^{スケ}
盤^{ード}
の
聖
広
場

聖
樹
仰
ぐ
わ
が
頭
に
も
光
の
環

尖塔の吹雪めつぶし聖者像

鯨^{ぶり}起^{おこ}し避雷針負^おふ使徒の像

寒鴉避け針千本の天使像

ゴ
シ
ツ
ク
の
底
冷
え
エ
レ
ベ
ー
タ
ー
係

聖
堂
の
床
に
雫
す
時
雨
傘

雪
も
よ
ひ
天
を
仰
げ
る
聖
者
像

雪
峠
木
は
そ
れ
ぞ
れ
の
癖
あ
ら
は

ア
ル
プ
ス
の
連
山
笑
ふ
帰
国
便

雪
晴
れ
の
ア
ル
プ
ス
峨
々
と
時
差
眠
り

機
の
窓
に
ア
ル
プ
ス
雪
の
総
絞
り

雑
詠

台北四句

北
窓
を
開
く
イ
ギ
リ
ス
商
館
も

薬
草
市
泥
蓮
根
の
は
み
だ
し
て

小隊が攀ぢ軍廟の屋根を替ふ

都心なる泥棒市に蛇を売る

誕生日の冠とせむシクラメン

きさらぎや父の箱書き臍の緒に

亡き名呼びつつ古雛抱へ出す

降りみ降らずみ浅草の雛市

耕せり湖と嶺とを左右にし

座
禅
草
法ほつす
主す
小坊主
向き
向き
に

隠こもり
沼ぬ
に
裾
を
浸
し
て
座
禅
草

く
び
か
し
げ
警
策
待
つ
や
座
禅
草

座
禅
草
描
く
と
ド
レ
ス
の
跪ひざまず
く

老
眼
鏡
ず
ら
し
て
覗
く
座
禅
草

ぼつねんと鴛鴦見る鷺の片脚立ち

神峯山寺
四句

ひと雨に黄落葺きの東とう司すなり

けもの径通ずる寺の照紅葉

山寺に一夜の落葉
秤^{はか}り得ず

寄せ書きの寺の屏風に横文字も

プリンティシ

南イタリー旅吟

年頭のワイン武骨な手に注がせ

ワゴン車のピザ屋台へと海時雨

枯蔦をのれんに石の貴族館

アップリアの街道尽きる冬たんぽぽ

石塊に紛ふ羊ら毛刈らねば

アドリアを翔け軍港のゆりかもめ

アドリアの碧透く海苔の世界地図

目もくらむまでアドリアの寒夕焼

オトラント

土
赭^{あか}
く
耕
し
て
出
づ
石^{いし}
鍬^{やじり}

公現飾り洗濯物も路地に垂れ

春隣り時鐘半拍づつずれて

底冷ゆるイエスは右の胸に創

殉教の髑髏どくろに鳴きて恋の猫

擦り傷の膝のイエスも悴める

サンタマリア岬

鳥帰るしるべに岬のマリア像

獄塀の高さを越ゆる花ミモザ

オリーブを揺りて実を採る網展げ

ローマにて夫と仰ぎし朧月

雑詠

辛党の兄が家伝の餡雑煮

書
き
置
き
に
実
印
の
封
初
旅
へ

初
吼
え
の
虎
サ
ー
カ
ス
の
幕
開
く

紅
拭
ひ
声
を
荒
げ
て
鬼
や
ら
ふ

吾の生れし暁あけさながらに牡丹雪

春愁を灯の無き家に持ち帰る

住み捨てる官舎に増えて花アロエ

浦島の浜を埋められ龍天へ

シテの役穴をあけたり春の風邪

孫弟子の手に手に拾ふ墓落葉

生臭きジャンパー釣りの指南役

冬帽を目深にしては鬱かくす

石鐘駅 五句

大綿のついて乗り込む特急車

綿虫を獲^とる一丈の蜘蛛の糸

彌白き大綿ただよふ石鎚駅

小町てふ白髪綿虫つきまどふ

綿虫の辺に単線の対向待ち

十字架に鴉師走の街眺む

植木棚葱の一鉢交へたる

枝打たず家の標しるべとなす杉は

貰ひ泣き飼ひ兎より赤き目に

バネありてじつと出来ない着ぶくれ児

陸
橋
に
猫
は
寝
そ
べ
り
年
の
市

句集 六香 むこ



発行日・平成十六年五月十五日

著者・品川鈴子

発行者・田口恵司

発行所・株式会社 角川書店

東京都千代田区富士見二一十三一三

〒一〇二一八一七七

電話（〇三）五二一一一五一一五五（編集）

編集制作・角川文化振興財団

印刷所・株式会社 熊谷印刷

製本所・株式会社 鈴木製本所